

令和7年度 文部科学省委託

学校安全総合支援事業報告書



令和8年2月
新潟県教育委員会

令和7年度「学校安全総合支援事業(学校安全推進体制の構築)」

1 事業名

令和7年度「学校安全総合支援事業（学校安全推進体制の構築）」

2 事業の趣旨

学校安全の推進に関する国の施策の基本的方向と具体的な方策を示すため、「第3次学校安全の推進に関する計画」（令和4年3月25日閣議決定）においては、学校安全計画・危機管理マニュアルを見直すサイクルを構築し、学校安全の実効性を高めること。地域の多様な主体と密接に連携・協働し、子供の視点も踏まえた安全対策を推進すること。全ての学校における実践的・実効的な安全教育を推進すること。地域の災害リスクを踏まえた実践的な防災教育・訓練を実施すること。事故情報や学校の取組状況などデータを活用し学校安全を「見える化」すること。そして、学校安全に関する意識の向上を図ることが、施策の基本的な方向性として示された。

また、「学校安全の推進に関する組織体制の整備と地域等との連携について～複雑化・多様化する課題に対応するための、実効的・持続的で安全・安心な学校づくりに向けて～審議のまとめ（学校安全の推進に関する有識者会議）」（令和7年2月、文部科学省ウェブサイト）に公開予定）を踏まえ、地域や関係機関等との連携体制の整備や学校の組織体制の整備充実等を図る必要がある。

これらの施策を推進していくためには、これまでの事業等で蓄積した様々な先進事例も踏まえながら、学校種・地域の特性に応じた継続的で発展的な実効性のある学校安全に係る取組を、地域が一体となって進めることができる体制を構築することが必要である。

以上を踏まえ、市区町村教育委員会を中心として、モデル地域内の学校で学校安全の組織的取組、外部専門家の活用、国私立を含む学校間の連携を促進し、モデル地域全体での学校安全推進体制を構築するとともに、都道府県等全域へその仕組みを普及することを支援し、受託都道府県等全域での学校安全の取組の推進を目指すものである。また、報告書等を活用し、次期「学校安全の推進に関する計画」策定の参考とすべき情報を収集するとともに、学校安全の推進体制の構築について全国的な普及を図るものである。

3 事業の内容

学校種・地域の特性に応じた地域全体での学校安全推進体制の構築を図るため、都道府県又は指定都市（以下「都道府県等」という。）の教育委員会が当該都道府県等の中でモデルとなる地域（以下「モデル地域」という。）を選定し、モデル地域の市区町村教育委員会が中心となってモデル地域全体での学校安全推進体制を構築する。モデル地域の実践を通じて得られた体制構築の成果等については当該都道府県等内の他地域にも普及し、都道府県等全体としての持続的な体制整備の構築へと広げ、都道府県等内の全ての地域において学校安全推進体制を構築する。

目次

- 1 事業の成果等について 1
 - 2 モデル地域の防犯教育について 7
【防犯教育のための単元 UNIT シート】
 - 3 事前・事後の防犯教育調査 13
【児童生徒】
 - 4 指導者からの講評 23
【講評】
 - ◇立正大学文学部 社会学博士
教授 小宮 信夫 氏
 - ◇上越教育大学大学院学校教育研究科学校教育学系
准教授 蜂須賀 洋一 氏
- 【第2回推進委員会(R7.12.17) 記録】
- ◇本事業の成果報告会の記録
 - ◇標記委員会での指導者からのご指導

事業の成果等について

新潟県

教育委員会名：新潟県教育委員会

住所：新潟県新潟市中央区新光町4番地1

電話：025-280-5622

I 都道府県・指定都市の現状と取組

1 安全上の課題

平成30年5月、新潟市で下校中の女子児童が殺害されるという痛ましい事件が発生。二度とこのような事件が発生しないよう、本県の防犯教育の一層の強化が求められた。

しかし、先生等の大人が、児童生徒の安全をいつも守り続けることには限界がある。

そこで、児童生徒自身が的確な思考や判断に基づく適切な意思決定や行動選択ができるようにするとともに、危機発生時の対応能力及び通学路における見守り体制の強化を図る必要がある。

2 事業目標

- (1) 地域安全マップづくりを中核とした取組実践をとおして、児童生徒の「景色解読力の向上」「危機予測能力の向上」を図っていくことで、自他の安全確保についての的確な思考、判断に基づく適切な意思決定や行動選択ができるようにする。
- (2) 地域安全マップづくりフィールドワークやマップづくり等を通して、学校と地域行政・地域防犯団体との連携を強化し地域、関係機関との連携・協働で取り組む防犯教育の推進に取り組む。

3 モデル地域選定の理由

長岡市では、毎年一定数の不審者事案が発生しており、令和6年度の報告件数は、児童生徒への直接の声掛けやつきまとい等、20件であった。

市管内では、各地域で行われる防犯パトロールを推進するとともに、警察署や長岡市、長岡地区防犯協会連合会と連携しながら啓発活動等に取り組むことで、市民の防犯意識の向上に努めている。令和6年度には、小学校区数54に対し、活動している防犯団体数は52で、その活動範囲は、当該小学校区を十分にカバーしていると言える。

また、長岡市には、地域コミュニティと学校が連携した防犯活動の取組構想がある。令和6年度にお

ける本事業の課題でもあった「地域、関係機関との連携・協働で取り組む防犯教育の推進」と、長岡市が目指す防犯活動の取組構想が一致することから、令和7年度も引き続き、本事業を活用し、「地域、関係機関との連携・協働で取り組む防犯教育の推進」で得られた成果を県内に拡大したいと考え、同地域をモデル地域に指定した。

4 取組の概要

(1) 学校安全体制の構築に係る取組及び成果の普及方法について

- ア 各市町村教育委員会へ事業報告書を送付し、防犯教育の好事例として紹介する。
- イ 市町村教育委員会による学校安全に関する研修等での資料活用を依頼する。
- ウ 令和8年度全県学校安全・保健体育講座、令和8年度中越地区学校安全教育指導者研修会で事業の成果を共有し、成果の普及に繋げる。

(2) 学校安全の中核となる教員の育成や資質能力の向上に係る取組について

- ア 全県学校安全・保健体育講座
日時：令和7年4月7日～5月30日
会場：オンデマンド研修
内容：管理職対象の講座の中で、新潟県の防犯教育に関する講座を実施。

- イ 防犯教育研修会
日時：令和7年6月27日
会場：県立教育センター
内容：学校安全中核教員対象の学校安全教育指導者研修会の中で、地域安全マップづくりとネット被害防止のための防犯教育に関する研修会を実施。

(3) 学校安全の取組を評価・検証するための方法について

事業の実施前及び実施後の取組状況について、県内全公立学校(新潟市除く)に対して調査を行う。実施前調査については、令和7年度学校安全に係る調査結果(新潟県)を用いることとする。

防犯教育が位置付けられた学校安全計画の策定ができているか、及び実効的な計画となる見直しができているかについて、次年度の研修に繋げる必要がある。

(4) その他の主な取組について

立正大学文学部社会学科教授、上越教育大学院学校教育研究科准教授から指導・助言を受けて実践した。

5 成果と課題

【成果1】

どの学校でも使える、適切な意思決定や行動選択ができる児童生徒を育てることのできる単元UNITシートを、昨年度に続き、今年度も作成することができた。

【成果2】

単元UNITシートを用いて「犯罪機会論」を基にした景色の見方について学び、適切な意思決定や行動選択に繋げることができる児童生徒が大幅に増えた。

【防犯教育のための単元UNITシート】

【課題】

児童たちだけでは獲得することが難しい防犯の視点(入りやすくて、見えにくい場所の景色の見方)を補うためには、地域の大人の力が不可欠である。そのため、年度当初からの学校と防犯団体との連携の在り方や、防犯の視点についての共通理解を図ることが、次年度への課題である。

II モデル地域の現状と取組

1 地域の現状及び安全上の課題

(1) 地域の現状

○拠点校：長岡市立希望が丘小学校

○近隣の学校：小学校1校 中学校1校

(2) モデル地域の安全上の課題

学区は狭く、同じような一本道が並び、道路の幅は狭くて入り組んでいるため、信号も少ない。そのため、地域の住民は、安全交通安全の意識が高く、防犯に体する意識はとて低。

そのため、地域安全マップづくりを中核とした本事業で景色解読力を身に付け、児童生徒自身の危機回避能力の向上、危機発生時の対応能力及び通学路における地域コミュニティとの連携強化を図る必要がある。

2 モデル地域の事業目標

児童生徒が安全に安全して学ぶことができる環境を創るためには、児童生徒の危機回避能力の向上、危機発生時の対応能力、通学路における地域の見守り体制の強化を図る必要がある。

そこで、地域安全マップづくりを中核とした取組実践をとおして、児童生徒の「景色解読力の向上」「危機予測能力の向上」を図っていくことで、自他の安全確保についての的確な思考、判断に基づく適切な意思決定や行動選択ができるようにする。

また、地域安全マップづくりフィールドワークやマップづくり講習会等を通して、児童同士や地域住民、学校

と地域とのかかわりの強化を図ることにより、通学路における地域の見守り体制の強化を図る。



3 取組の概要

(1) 安全教育の充実に関する取組

ア 安全教育の充実に関する取組

(ア) 「マップづくりのためのフィールドワーク」

日時：令和7年7月11日(金)

会場：長岡市立希望が丘小学校区

内容：拠点校の3年生が、地域安全マップ作成に向け、9グループに分かれて、地域コミュニティ、長岡市協働推進部市民課職員の方々と校区内をフィールドワーク。



(イ)「地域安全マップづくり」

日時：令和7年7月18日（金）

会場：長岡市立希望が丘小学校

内容：フィールドワークで記録した「入りやすくて、見えにくい場所」を地域安全マップにまとめる学習。



(ウ)第1回推進委員会

日時：令和7年8月20日（水）

会場：長岡市立中央図書館（ハイブリッド開催）

指導者：立正大学教授 小宮 信夫 氏

上越教育大学准教授 蜂須賀 洋一 氏

内容：県警、市警、県・市行政職員、モデル地域学校安全担当職員による県の防犯実態や本事業の方向性、実施内容、役割分担について共有。



(エ)第2回推進委員会

日時：令和7年12月17日（水）

会場：長岡市立希望が丘小学校（ハイブリッド開催）

指導者：立正大学教授 小宮 信夫 氏

内容：拠点校の防犯教育における児童の変容や長岡市内における防犯教育の課題、今後の取組について推進委員で協議した。

イ 安全教育の取組を評価する・検証するための方法について

拠点校児童（小3）を対象に、事業前と事業後に防犯教育調査を実施。事業前と事業後の児童の学びの深まりや危機回避能力・危険な場所の景色の見方（景色解読力）の向上について検証する。

(2) 組織的取組による安全管理の充実に関する取組

ア 地域安全マップづくり講習会

日時：令和7年6月19日（木）

会場：希望が丘コミュニティセンター
（ハイブリッド開催）

指導者：立正大学教授 小宮 信夫 氏

内容：希望が丘地域コミュニティ防犯担当者を対象に開催。児童への指導者として、危険な場所の景色の見方について学ぶ。

イ 防犯講演会

日時：令和7年8月20日（水）

会場：長岡市立中央図書館（ハイブリッド開催）

講師：立正大学教授 小宮 信夫 氏

内容：市内の長岡地区防犯協会連合会、及び市内小中学校の学校安全担当者を対象に開催。「子どもの安全はこうして守る」と題し、地域の危険な場所（犯罪が起りやすい場所）はどこか、「子どもを犯罪から守るためにはどうすればいいのか」など、犯罪が起りやすい場所（ホットスポット）のパトロールの仕方や、通学路の安全点検を効果的に実施するためのヒントについて学ぶ。



(3) 学校安全の中核となる教員の学校安全推進体制の構築における役割及び中核教員の資質能力の向上に係る取組について

ア 第1回実践委員会

日時：令和7年6月19日（木）

会場：希望が丘コミュニティセンター
（ハイブリッド開催）

講師：立正大学教授 小宮 信夫 氏

内容：県の防犯教育の方向性や今後の予定、分担等について協議。

4 取組の成果と課題

【成果】

防犯教育のための単元 UNIT シートで UNIT ごとのねらいに沿って学習を進めることで、犯罪者に犯罪の機会を与えないようにしようとする児童が育ち、誰もが「入りやすく」、誰からも「見えにくい」危険な場所の見方が分かる児童が育つことが、次の点で確認できた。枠内は、本事業の事前・事後に児童に行った防犯教育調査の結果で、数値に大きな変容が見られた。

ア 犯罪が起きるのは、人（＝不審者）ではなく、機会（＝場所）に着目（犯罪機会論）して考える児童が大幅に増えた。

調査項目 「危険な場所」とは「入りやすくて見えにくい場所」である。
「どう考えてもそう思う」「なんとなくそう思う」と回答した児童生徒
事前調査：0% +100 ポイント
事後調査：100%

イ 「人（＝不審者）で危険を判断する」という考えの児童が大幅に減った。

調査項目 「怪しい人」は見ただけで分かる。
「どう考えてもそう思わない」「なんとなくそう思わない」と回答した児童生徒
事前調査：2% +90 ポイント
事後調査：92%

調査項目 「悪い人」はマスクをしていることが多い。
「どう考えてもそう思わない」「なんとなくそう思わない」と回答した児童生徒
事前調査：0% +100 ポイント
事後調査：100%

第2回推進委員会における事業の振り返りの中で、前年度拠点校の金田教頭は、このような児童の大きな変容について、拠点校3年生の児童たちが全校児童に対して行った「発表の機会」による影響が大きいと述べている。発表の準備過程において、児童たちが互いに「こうだったかな」「こうだったよね」と学習内容を確認し合う活動



を取り入れたことが、防犯の視点（入りやすくて、見えにくい場所の景色の見方）の定着に繋がったと考えられる。



ウ 危険な場所の見方を知ることができた児童が大幅に増えた。

調査項目 景色を見れば、「安全な場所」と「危険な場所」の違いが分かる。
「どう考えてもそう思う」「なんとなくそう思う」と回答した保護者
事前調査：0% +96 ポイント
事後調査：96%

調査項目 周りが田んぼの道は、「危険な場所」である。
「どう考えてもそう思う」「なんとなくそう思う」と回答した保護者
事前調査：4% +96 ポイント
事後調査：100%

【課題】

防犯の視点（入りやすくて、見えにくい場所は危険）で危険な場所を探すフィールドワークでは、児童だけで探することが難しく、グループに差が出た。

<グループごとに探し出した危険箇所数>

1班：8か所、2班：5か所、3班：4か所、
4班：6か所、5班：12か所、6班：4か所、
7班：10か所、8班：6か所、9班：5か所

学習した場所と同じような場所であれば児童だけでも気付けるが、歩きながら防犯の視点で気付くことは、3年生児童だけでは難しいことであった。



フィールドワークに協力する多くの大人は、交通安全の視点で危険な場所を見てしまうため、防犯の視点で児童にアドバイスしたり、危険な場所で児童に対し「ここは危なくないかな？」と立ち止まって考えさせたりできるフィールドワークにするためにも、単元開始前、もしくはフィールドワーク実施前までに、協力してもらおう防犯団体やボランティアに対する防犯の視点の事前学習が必要である。

モデル地域の防犯教育について

【防犯教育のための単元 UNIT シート】

【防犯教育のための UNIT シート】について

防犯教育の参考にしてください

今年度の学校安全総合支援事業拠点校である、長岡市立希望が丘小学校の学校安全担当中核教員が、どの学校でも利用できる「防犯教育のための単元 UNIT シート」を作成しました。

3年生の子どもたちが、総合的な学習の時間や社会、国語の教科等横断的な学習で実践しました。

是非、貴校の防犯教育の参考にしてください。

4ステップの防犯学習

この UNIT シートは、「知る」→「調べる」→「気付く」→「伝える」の4ステップで単元を構成し、設定したねらいに沿って学習を進めていくことができます。



防犯教育の自校化に繋がってください

UNIT シートのデータは、新潟県教育庁保健体育課のホームページから利用できるようになっています。シートを有効に活用いただき、貴校の「防犯教育のための UNIT シート」を作成して防犯教育を学校安全計画に位置付けることで、防犯教育の自校化に繋がってください。

新潟県教育庁保健体育課ホームページには、令和6年度モデル地域校の燕市立粟生津小学校・吉田南小学校・吉田中学校が作成した UNIT シートも掲載していますので、自校の取組の参考として、ぜひ御活用願います。

防犯教育のための単元 UNIT シートの紹介

① UNIT ごとのねらいを達成して単元のねらいを目指す

単元をUNITで構成することで

- 単元の概要が一目でわかる
- UNITごとに何をすればいいかが明確

UNITごとのねらい

単元のねらい

UNIT 1～4の4ステップで実施できる防犯教育【長岡市立希望が丘小学校】

ねらい 犯罪は不審者などの「人」だけでなく、目撃者に都合の良い「場所」や「状況」に着目することが大切なことに気づき、「入りやすく見えにくい」という視点から、地域の危険な場所の特徴を見分け、犯罪被害に遭わないための危険予知能力と危険回避能力を身に付けることができる。

UNIT 1 知る (2時間) (社4)

タイトル 「入りやすく見えにくい」ってどんな場所？

ねらい (学習目標) 防犯アニメを通して、防犯上のキーワード「入りやすく見えにくい」について理解し、身近な希望が丘地域に危険な場所があるのか調べたいと意欲を高めることができる。

UNIT 2 調べる (7時間)

タイトル 地域の「入りやすく見えにくい」場所を探しに行こう！

ねらい (学習目標) 希望が丘地区の「入りやすく見えにくい」ところを調べ活動を通して、通学路や自宅周辺にも、様々な危険な場所や目撃しづらく見えない場所があることに気づき、「入りやすく見えにくい」を視点に地域の防犯マップをつくり全校や地域に知らせたいと意欲を高めることができる。

UNIT 3 気付く (4時間)

タイトル 希望が丘地域の危険な場所を防犯マップにしよう！

ねらい (学習目標) 主な活動：「入りやすく見えにくい」に付けて調査資料を整理し、調査した危険な場所や状況を記録したマップを、画像をもとに「入りやすく見えにくい」に整理してマップにする中で、地域の建物や施設、道路のつくりによって危険な場所や特徴が異なることに気づき、犯罪被害に遭わないための工夫について防犯マップにまとめることができる。

UNIT 4 伝える (3時間) (国8)

タイトル 希望が丘の「入りやすく見えにくい」をみんなに伝えよう！

ねらい (学習目標) 主な活動：全校、保護者、地域の方を招いた防犯マップ発表会を開催し防犯マップをもとに、地域の危険な場所や状況を分かりやすく伝えるための工夫について話し合う中で、「入りやすく見えにくい」を視点に危険予知と危険回避について伝えることが大切なことに気づき、地域に寄り添った危険場所と回避方法が伝わるように発表することができる。

児童の姿 (成果)

単元の導入で防犯アニメを視聴させたことで、「入りやすく見えにくい」という分かりやすい視点から防犯への理解と興味・関心を高めることができた。地域セーフティパトロールの各様から通学路や自宅周辺の調査に協力いただいたことで、複数の地域の調査を安全に行うことができた。普段、交通安全を中心に子どもたちを見守ってくださる地域セーフティパトロールの各様にも防犯教育への関心を高めてもらうきっかけとなった。防犯マップ発表会上、全校児童、保護者、地域の方を招いたことで、身近な地域に寄り添った危険な場所や状況とその回避について多くの方に関心をもってもらうことができた。

児童の姿

② UNIT は4ステップ 知る→調べる→気付く→伝える

単元をUNITで構成することで

- 単元の概要が一目でわかる
- UNITごとに何をすればいいかが明確

UNITごとのねらい

単元のねらい

UNIT 1～4の4ステップで実施できる防犯教育【長岡市立希望が丘小学校】

ねらい 犯罪は不審者などから、地域の危険な場所や状況に着目することが大切なことに気づき、「入りやすく見えにくい」という視点から、地域の危険な場所の特徴を見分け、犯罪被害に遭わないための危険予知能力と危険回避能力を身に付けることができる。

UNIT 1 知る (2時間) (社4)

タイトル 「入りやすく見えにくい」ってどんな場所？

ねらい (学習目標) 防犯アニメを通して、防犯上のキーワード「入りやすく見えにくい」について理解し、身近な希望が丘地域に危険な場所があるのか調べたいと意欲を高めることができる。

UNIT 2 調べる (7時間)

タイトル 地域の「入りやすく見えにくい」場所を探しに行こう！

ねらい (学習目標) 希望が丘地区の「入りやすく見えにくい」ところを調べ活動を通して、通学路や自宅周辺にも、様々な危険な場所や目撃しづらく見えない場所があることに気づき、「入りやすく見えにくい」を視点に地域の防犯マップをつくり全校や地域に知らせたいと意欲を高めることができる。

UNIT 3 気付く (4時間)

タイトル 希望が丘地域の危険な場所を防犯マップにしよう！

ねらい (学習目標) 主な活動：「入りやすく見えにくい」に付けて調査資料を整理し、調査した危険な場所や状況を記録したマップを、画像をもとに「入りやすく見えにくい」に整理してマップにする中で、地域の建物や施設、道路のつくりによって危険な場所や特徴が異なることに気づき、犯罪被害に遭わないための工夫について防犯マップにまとめることができる。

UNIT 4 伝える (3時間) (国8)

タイトル 希望が丘の「入りやすく見えにくい」をみんなに伝えよう！

ねらい (学習目標) 主な活動：全校、保護者、地域の方を招いた防犯マップ発表会を開催し防犯マップをもとに、地域の危険な場所や状況を分かりやすく伝えるための工夫について話し合う中で、「入りやすく見えにくい」を視点に危険予知と危険回避について伝えることが大切なことに気づき、地域に寄り添った危険場所と回避方法が伝わるように発表することができる。

児童の姿 (成果)

単元の導入で防犯アニメを視聴させたことで、「入りやすく見えにくい」という分かりやすい視点から防犯への理解と興味・関心を高めることができた。地域セーフティパトロールの各様から通学路や自宅周辺の調査に協力いただいたことで、複数の地域の調査を安全に行うことができた。普段、交通安全を中心に子どもたちを見守ってくださる地域セーフティパトロールの各様にも防犯教育への関心を高めてもらうきっかけとなった。防犯マップ発表会上、全校児童、保護者、地域の方を招いたことで、身近な地域に寄り添った危険な場所や状況とその回避について多くの方に関心をもってもらうことができた。

児童の姿

シートには関連する教科もあり、防犯教育を教科等横断的に行っていることも分かります。

③指導計画とセットで利用することで、より単元をイメージ

単元をUNITで構成することで

- 単元の概要が一目でわかる
- UNITごとに何をすればいいかが明確
- 指導計画とSETになっている

UNIT 1～4の4ステップで実施できる防犯教育【長岡市立希望が丘小学】

ねらい 犯罪は不審者などの「人」だけでなく、犯罪に都合の良い「場所」や「状況」に着目することが大切。ことばが「入りやすく」「見えにくい」といふから、地域の危険な場所の特徴を見付け、犯罪被害に遭わないための危険予測能力と危険回避能力を身に付けることができる。

UNIT 1 知る (2時間)

ねらい (学習目標) 主な活動：「明探偵！希望が丘はどこか？」
防犯アニメ「あふない！どこってどんなところ？」視聴
◎防犯アニメを通して、防犯上のキーワード「入りやすく」「見えにくい」について理解し、身近な希望が丘地域に危険な場所があるのか調べたいと意欲を高めることができる。

・地域の人々との関わりや子ども同士の関わりの中で、思いやりをもって活動する子ども
・主体的に学んだり、発表したりする子ども
3. 各学年の「核」になる活動・関連する教科等・指導のポイント（基本的なスケジュール）

プラン名と「核」になる活動

「安全！安心！案内人♥」（安全・安心マップ発表会）

活動時期	「核」につながる活動	「核」に関する地域の人・もの・こと	関連する教科・道徳・特活	指導のポイント☆反省
5月	①「安全・安心マップを作成しよう」(2回) ②動画を見て防犯ポイント「見えにくい」「入りやすい」を知る。(2) ③なまよし公園は安全か見てこよう。(2) ④探検に行く準備をしよう(1)	①自分の家族 ②希望が丘小学校の先生方 ③セーフティパトロールの方	社会「わたしたちの大好きなまち」 社会「わたしたちのまちと市」	・希望が丘地域について知っていることを出し合う。 ・地域探検に行き、希望が丘の地にはたくさん危険なところがあるところを見つけよう。 ・子ども110番の家・ゾーン30など、地域の人たちがを守るために考えられているものに気付く。 ・動画を観て、防犯ポイントである「入りやすい」「見えにくい」を知る。 ・どんな場所が「入りやすい」「見えにくい」の危険な場所になり、自分たちの住む地域で見つけることができる。 ・案内人セーフティパトロールの方々に探検についてきていただき、地域探検隊員に扮して。
9月	⑤探検に行き見つけてこよう。(2) ⑥「見えにくい」「入りやすい」場所を地図にまとめよう。(9) ⑦「安全・安心マップを紹介しよう」(10) ⑧安全・安心マップを全校のみなさん、地域のの方々に紹介する。	⑧コミュニティセンター 長谷川センター長		・案内人セーフティパトロールの方々に探検についてきていただき、地域探検隊員に扮して。 ・全校のみんなが安全に過ごせるよう全校集会で安全・安心マップを紹介する。

UNITシート

単元の指導計画

UNIT 1の「知る」では、子どもたちが「入りやすく」「見えにくい場所」について学習します。

UNIT 1のねらい(学習目標)を「◎防犯アニメを通して、防犯上のキーワード「入りやすく」「見えにくい」について理解し、身近な希望が丘地域に危険な場所があるのか調べたいと意欲を高めることができる。」としていて、防犯アニメの動画を視聴することが分かります。



単元の指導計画を見ると、この「入りやすく」「見えにくい」という言葉が防犯ポイントになっていることや、関連する教科が社会「わたしたちの大好きなまち」と「わたしたちのまちと市」で、教科等横断的に防犯教育を進めていくことも分かります。

単元をUNITで構成することで

- 単元の概要が一目でわかる
- UNITごとに何をすればいいかが明確
- 指導計画とSETになっている

令和6年度 燕市立吉田中

UNIT 1 (知る)
不審者対策避難訓練

○ねらい
犯罪機会論や警戒力について知ることを通じて、危険を予測し、回避できるようにし、犯罪被害を未然に防ぐ方法を身に付ける。

○ねど
避難訓練

○ねら
避難訓練

生徒の変容(成果)
不審者についての考え方や、危険な場所の判断上では、SNSが「入りやすく・見えにくい」危険について理解し、具体的な場面で見つかる。

・犯罪機会論について知ることを通じて、警戒力や色覚能力を身につけることで、危険を予測し、判断できるようにし、犯罪被害を未然に防ぐ方法を身に付ける。
・地域や商業施設などの現実の生活場以外にも、中学生が巻き込まれやすい犯罪被害について考えることを通じて、インターネット上の犯罪被害を防止するためにはどのようにすればよいか考える。
2 実習
UNIT 1 (知る) 不審者対策避難訓練 全学年対象
○不審者対策のための避難訓練を行う。
○避難後の状況で、犯罪機会論や警戒力について知る。
防犯アニメ「あふない！どこってどんなところ？」視聴
○不審者対策の全日は判断できないことや、連れ去りなどの犯罪は、子どもからの意思で行われる事例は多いことを知る。
・犯罪は、動機を付けた人が、犯罪の機会(犯罪が成功しそうな場所・状況・環境)に出会って初めて犯罪が起こるという「犯罪機会論」について知る。
・犯罪が起きやすい場所は、誰か(犯人も)「入りやすく・見えにくい」場所であることを加え、心理的・物理的に「入りやすく見えにくい」場所であることを理解を深める。

UNITシート

単元の指導計画

こちらは、令和6年度モデル地域校の吉田中学校のUNITシートと単元の指導計画です。インターネット上のSNSが「入りやすく・見えにくい」危険な場所であることを、UNIT 1～3の3ステップ「知る」→「共有する」→「深める」で学習できます。ホームページに掲載していますので、自校の取組の参考として、ぜひ御活用願います。

UNIT 1～4の4ステップで実施できる防犯教育【長岡市立希望が丘小学校】

ねらい

犯罪は不審者などの「人」だけでなく、犯行に都合の良い「場所」や「状況」に着目することが大切なことに気付き、「入りやすく」「見えにくい」という視点から、地域の危険な場所の特徴を見付け、犯罪被害に遭わないための危険予測能力と危険回避能力を身に付けることができる。

UNIT 1
知る（2時間）

タイトル 「入りやすく」「見えにくい」ってどんな場所？

ねらい（学習目標）

主な活動：町探検「希望が丘はどんな町？」
防犯アニメ「あぶないところってどんなところ？」視聴

（社4）

◎防犯アニメを通して、犯犯上のキーワード「入りやすく」「見えにくい」について理解し、身近な希望が丘地域に危険な場所があるのか調べたいと意欲を高めることができ。



UNIT 2
調べる（7時間）

タイトル 地域の「入りやすく」「見えにくい」場所を探しに行こう！

ねらい（学習目標）

主な活動：身近な場所の調査（グラウンド・なかよし公園）
地域サーフェイパーパトロールの皆様と調査活動



◎希望が丘地区の「入りやすく」「見えにくい」ところを調べる活動を通して、通学路や自宅周辺にも、柵などがなく誰でも簡単に入れる場所や人目につかず隠れる場所があることに気付き、「入りやすく」「見えにくい」を視点に地域の防犯マップをつくり全校や地域に知らせたいと意欲を高めることができ。



UNIT 3
気付く（4時間）

タイトル 希望が丘地域の危険な場所を防犯マップにしよう！

ねらい（学習目標）

主な活動：「入りやすく」と「見えにくい」に分けて調査資料を整理



◎調査した危険な場所や状況を記録したメモ、画像をもとに、「入りやすく」と「見えにくい」に整理してマップにする中で、地域の建物や施設、道路のつくりによって危険な場所や特徴が異なることに気付き、犯罪被害に遭わないための工夫について防犯マップにまとめることができ。



UNIT 4
伝える（3時間）

タイトル 希望が丘の「入りやすく」「見えにくい」をみんなに伝えよう！

ねらい（学習目標）

主な活動：全校、保護者、地域の方を招いた防犯マップ発表会

（国8）

◎作成した防犯マップをもとに、地域の危険な場所や状況を分かりやすく伝えるための工夫について話し合う中で、「入りやすく」「見えにくい」を視点に危険予知と危険回避について伝えることが大切なことに気付き、地域に潜む危険場所と回避方法が伝わるように発表することができ。

児童の姿（成果）

単元の導入で防犯アニメを視聴させたことで、「入りやすく」「見えやすい」という分かりやすい視点から防犯への理解と興味・関心を高めることができた。地域サーフェイパーパトロールの皆様から通学路や自宅周辺の調査に協力をいただいたことで、複数の地域の地域の調査を安全に行うことができた。普段、交通安全を中心に子どもたちを見守ってくださる地域サーフェイパーパトロールの皆様にも防犯教育への関心を高めてもらった。防犯マップ発表会に、全校児童、保護者、地域の方を招いたことで、身近な地域に潜む危険な場所や状況とその回避について多くの方に関心をもってもらうことができた。

ふるさと学習プラン（ 3 ）年

1. 身に付けさせたい・伸ばしていきたい「生きる力」

活動を通して生まれた思いや願い、経験したことや考えたことを相手に言葉で伝える力と相手の思いを受け入れる力

2. 「学びの集大成」に向けて目指す具体的な子どもの姿

- ・ 希望が丘地域を知り、みんなに守られて安心・安全に過ごしていることに気付くことで、自分たちの住む地域に対して愛着や誇りをもつ子ども
- ・ 地域の人々との関わりや子ども同士の関わりの中で、思いやりをもって活動する子ども
- ・ 主体的に学んだり、発表したりする子ども

3. 各学年の「核」になる活動・関連する教科等・指導のポイント（基本的なスケジュール）

プラン名と「核」になる活動				
「安全！安心！案内人♥」（安全・安心マップ発表会）				
活動時期(月)	「核」につなげる活動	関わる地域の人・もの・こと	関連する教科 道徳・特活	・指導のポイント☆反省
5月 ～ 9月	「安全・安心マップを作ろう！」(28) ①動画を見て防犯ポイント「見えにくい」「入りやすい」を知る(2)。 ②グラウンドは安全か見てこよう【防犯ポイントを使う練習・見つけるポイントをはっきりさせる】(2) ③なかよし公園は安全か見てこよう。(2) ④探検に行く準備をしよう(1) ・ストリートビューを見ながら、「見えにくい」「入りやすい」場所を探して、地図や記録用紙に書く。 ⑤探検に行き見てこよう。(2) ⑥「見えにくい」「入りやすい」場所を地図にまとめよう。(9) 「安全・安心マップを紹介しよう」(10) ・安全・安心マップを全校のみなさん、地域の方々に紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の家族 ・希望が丘小学校の先生方 ・セーフティーパトロールの方々 	社会「わたしたちの大好きなまち」 社会「わたしたちのまちと市」	<ul style="list-style-type: none"> ・希望が丘地域について知っていることを出し合う。 ・地域探検に行き、希望が丘の町にはたくさん危険なところがあることに気付く。 ・子ども110番の家・ゾーン30など、地域の人たちを守るために考えられているものに気付く。 ・動画を見て、防犯ポイントである「入りやすい」「見えにくい」を知る。 ・どんな場所が「入りやすい」「見えにくい」のか具体的に分かり、自分たちの住む地域で見つけることができる。 ・町内ごとにセーフティーパトロールの方々に探検についてきていただき、地域の危険箇所について学ぶ。 ・全校のみんなが安全に過ごせるよう全校集会で安全・安心マップを紹介する。
10月 ～ 11月	「安心してすごせるのはなぜだろう。」(13) ・地域の方々にお話を聞こう	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティセンター 長谷川センター長さん ・食生活改善推進委員 ・母子保健推進委員 ・民生委員 		<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティセンターを中心として多くの人たちが、地域の人たちのために活動してくださっていることに気付く。
11月	「高齢者の方を知ろう」(6) ・高齢者体験をする(3) ・サークル活動に参加する(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・太極拳サークル「ハナミズキ」のみなさん ・音楽サークル「どれみふぁあクラブ」のみなさん 	図工「ともしびボスターを作ろう」 国語「わたしの町のよいところ」	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者体験をして、高齢者の方の体の動きについて知り、コミュニティセンターの方々の活動に理解を深める。 ・サークルの方と交流し、感じたことやインタビューしたことをまとめ、創作劇へとつなげる
12月	「安全・安心マップに安心ポイントを付け加えよう」(3)			<ul style="list-style-type: none"> ・サークルの方と交流し、感じたことやインタビューしたことをまとめ、創作劇へとつなげる。
1月 ～ 2月	「安全・安心・案内人」(14) ・地域の安全・安心について総合創作劇にまとめる(9) ・学習参観日に発表会をする(1) ・学校内のみんなが安心・安全に過ごせるよう考えて実行する。(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方 ・保護者 	国語「気持ちをこめて『来てください』」(案内状の書き方) 国語「わたしの町のよいところ」(紹介文の書き方)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人やお家の人、みんなに自分たちが調べたことを理解し、楽しんでもらえるように劇での表現の仕方を工夫する。 ・意見を出し合い、調べてきたことがより伝わるようにするためにはどうしたらいいのか考えさせる。 ・全校のみんなが安全に過ごせるように、できることを考えて実行する。

事前・事後の防犯教育調査

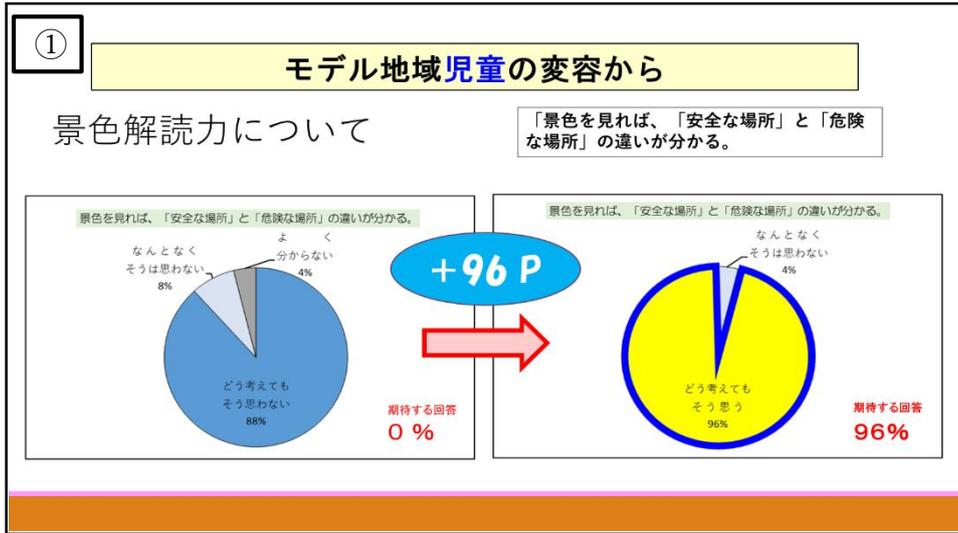
防犯調査

長岡市立希望が丘小学校3年生の児童を対象に防犯教育調査を実施。事業の事前と事後の調査で、防犯の知識や考え方の変容を確かめます。

主な防犯教育調査の結果から

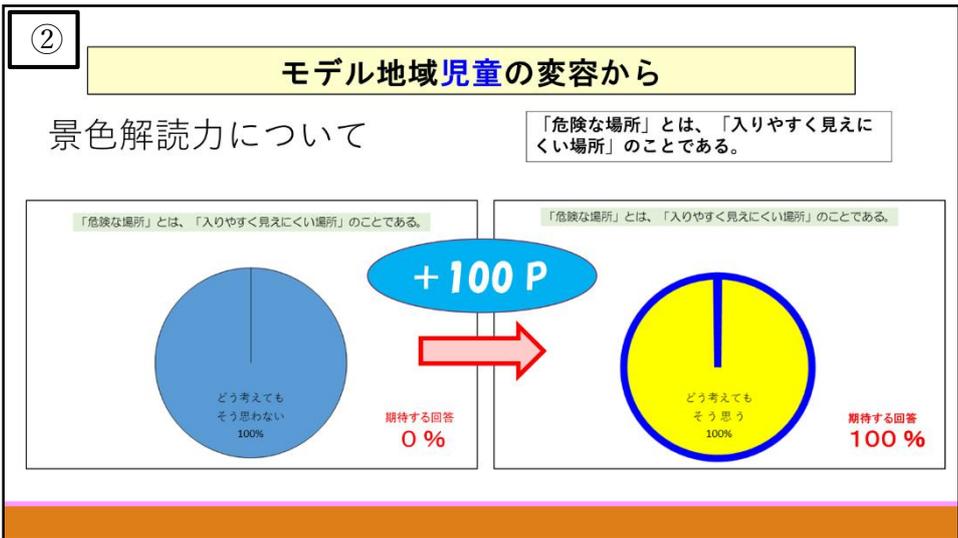
景色解読力（けしきかいどくりょく）の変容

大阪教育大学の藤田教授※1は、令和6年度の文部科学省主催の学校安全指導者養成研修で、「犯罪が起きやすい場所というのは、領域性が低くて、監視性が低い場所。」と講義されました。つまり、「誰もが入りやすく、誰からも見えにくい場所」を、犯罪者は好んでいると考えられ、「犯罪機会論」は、この様な場所で「犯罪の機会を与えないことによって、犯罪を未然に防止しよう」とする考え方のことを言います。



①この調査では、防犯教育単元の学習前と学習後で、児童に「安全な場所」と「危険な場所」の景色の見方が身に付いているかを確認しています。結果は+96ポイントで、学習した児童の多くに、『誰もが「入りやすく」、誰からも「見えにくい」場所が危険な場所だ』、という景色の見方が身に付いたことが分かります。

※1 平成13年の附属池田小学校での無差別殺傷事件後、平成19年から4年間、校長として、事件後の学校安全の再構築に取り組んだ。SPSの認証制度を平成26年に創設。現在、大阪教育大学健康安全教育系 教授/学長補佐（学校安全担当）・学校安全推進センター長。



②「入りやすく見えにくい場所」は、「危険な場所」だと気付くための景色の見方が、児童に知識として定着しているかを確認する調査です。結果は+100ポイントでした。防犯教育のためのUNITシートでは、UNIT1～4の「知る」「調べる」「気付く」「伝える」学習を通して、多くの児童が防犯の知識を身に付けていくことができます。

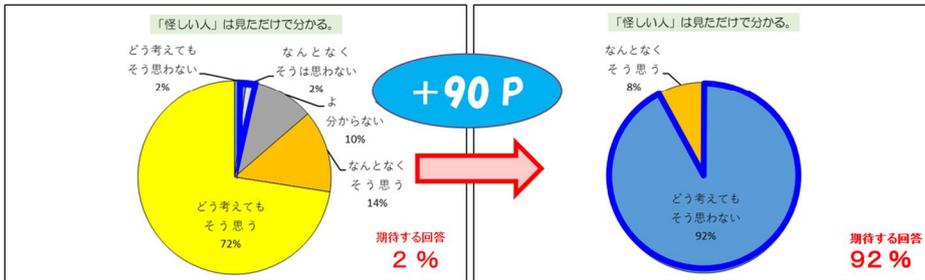
②危険の判断（危機察知能力）の変容

③

モデル地域児童の変容から

危険の判断について

「怪しい人」は見ただけで分かる。



③危険かどうかは、

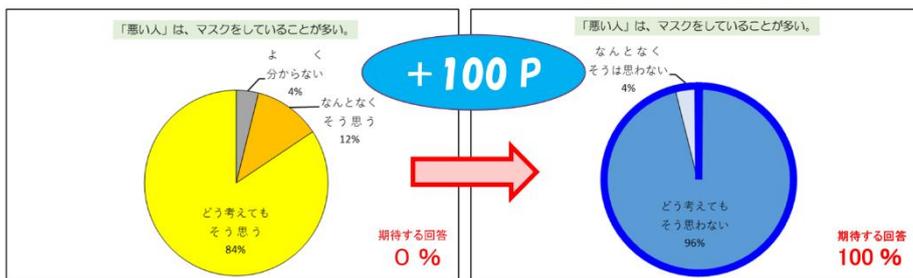
「人」で判断するのではなく「場所」で判断できるようになっているかを確かめるための調査です。もちろん「場所」とは、「入りやすく見えにくい場所」のことです。結果は+90ポイントでした。多くの児童が、「人」ではなく「場所」で危険を察知しようとする力が身に付いています。

④

モデル地域児童の変容から

危険の判断について

「悪い人」はマスクをしていることが多い。



④この調査でも、学習前までは、多くの児童が

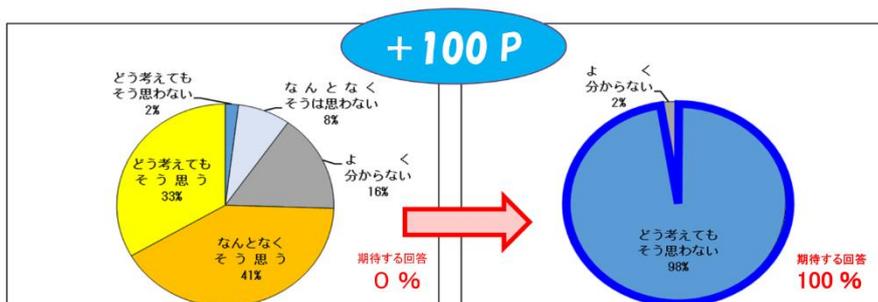
「人」の見た目で危険かどうかを判断していたことが分かります。学習後の結果は、+100ポイントで、全ての児童が、「マスク=危険な人」という意識がなくなりました。「マスクとサングラスをしている人は不審者」という固定観念は、危機察知能力ではありません。

⑤

モデル地域児童の変容から

危険の判断について

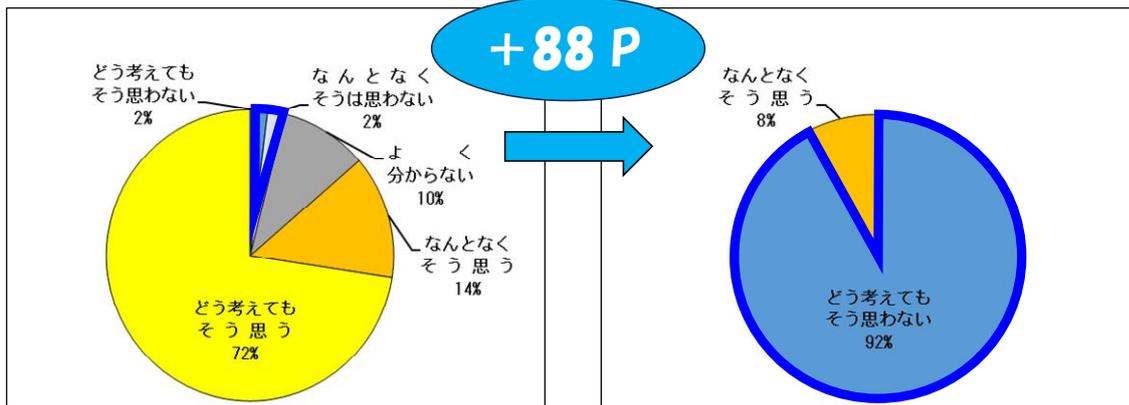
「悪い人」はいきなり襲ってくる。



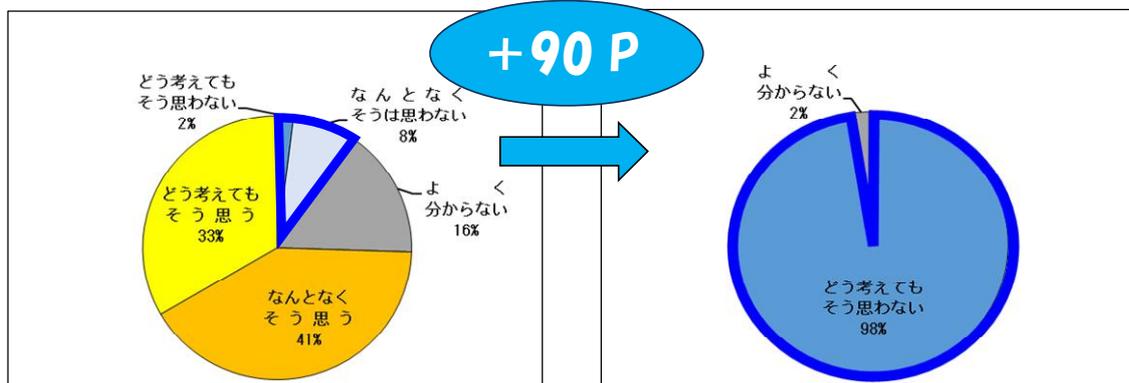
⑤「悪い人」は、『誰もが

「入りやすく、誰からも見えにくい」場所』で、児童に声をかけてきたり、連れ去ろうとしたりしてきます。防犯教育のためのUNITシートを使った学習で、「入りやすく、見えにくい」場所には行かない、近づかないようにしよう、と判断できる力が、多くの児童に身に付きました。

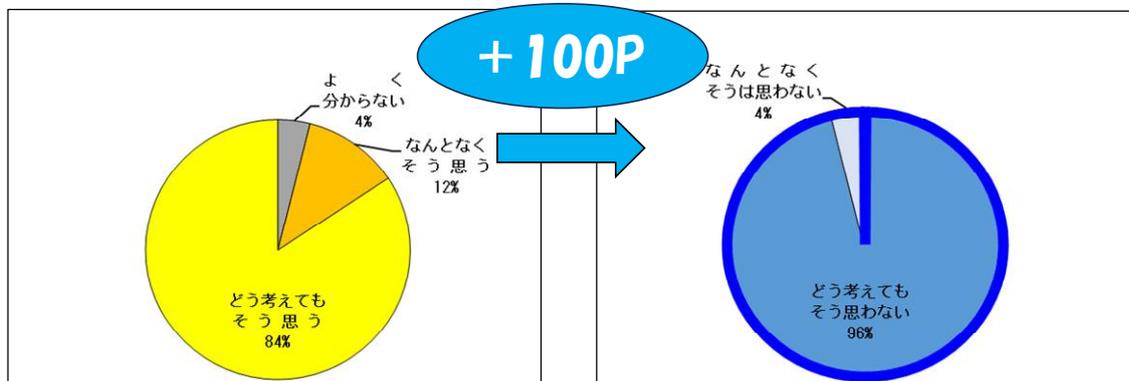
①「怪しい人」は見ただけで分かる。



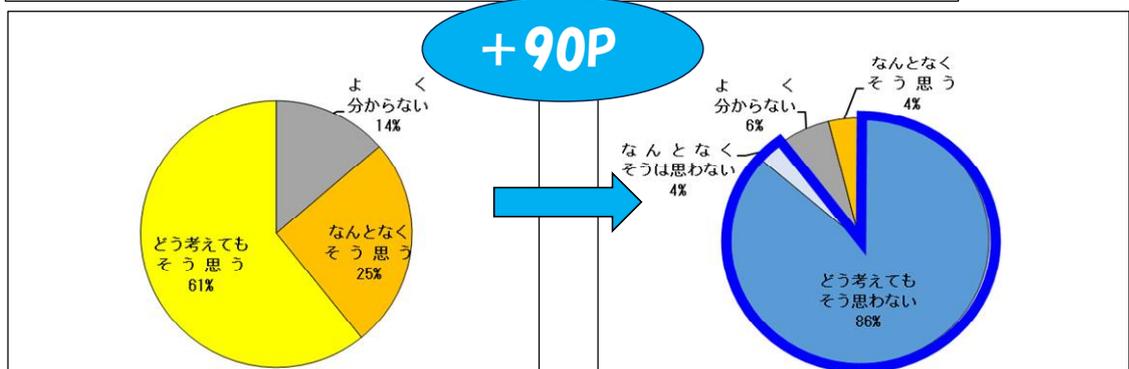
②「悪い人」はいきなり襲ってくる。



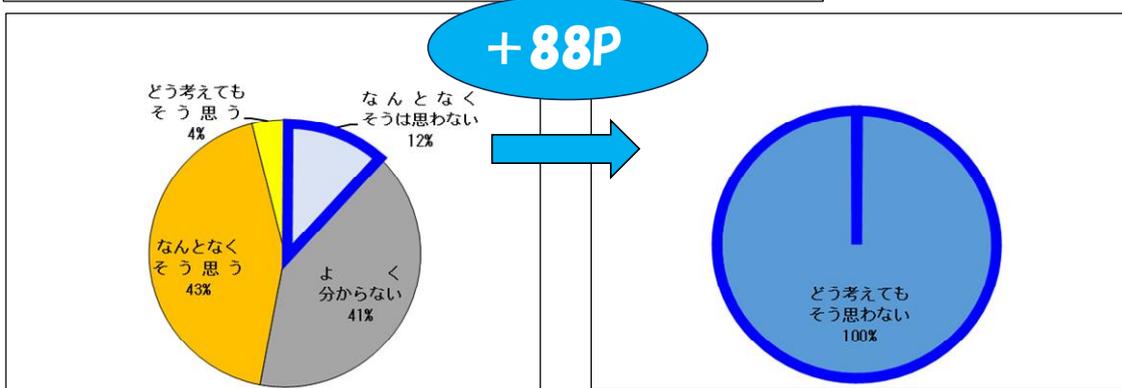
③「悪い人」はマスクをしていることが多い。



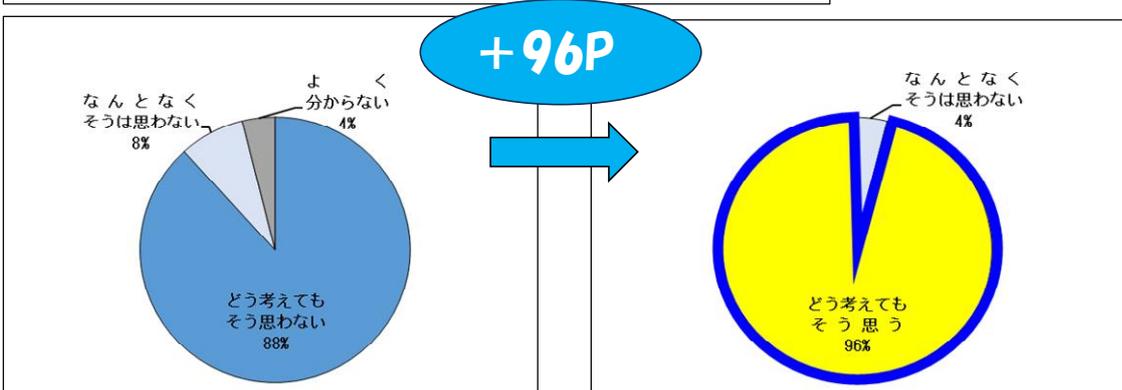
④危ない目にあったとき「子ども110番の家」ではない家に逃げてはいけない。



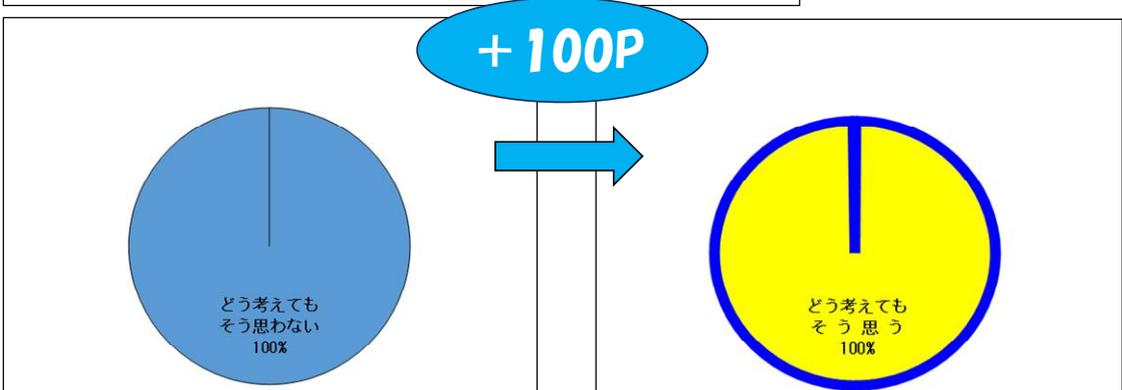
⑤「安全な場所」であれば知らない人といろいろお話してもよい。



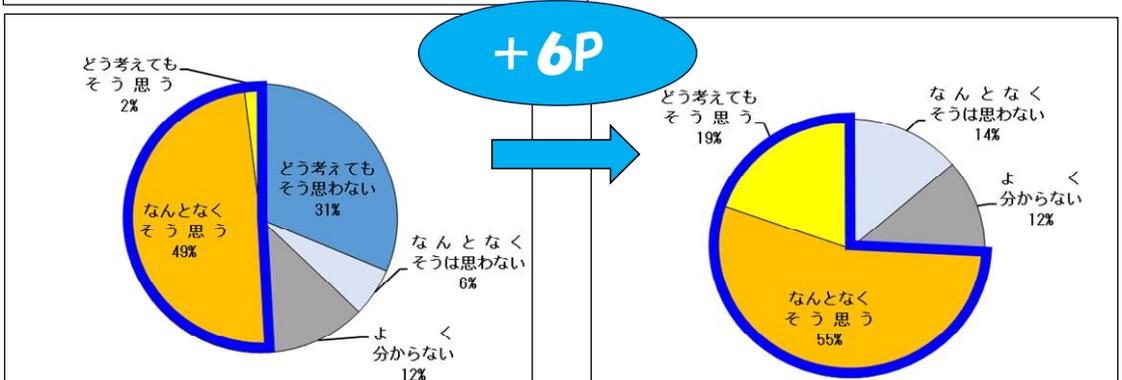
⑥景色を見れば「安全な場所」と「危険な場所」の違いが分かる。



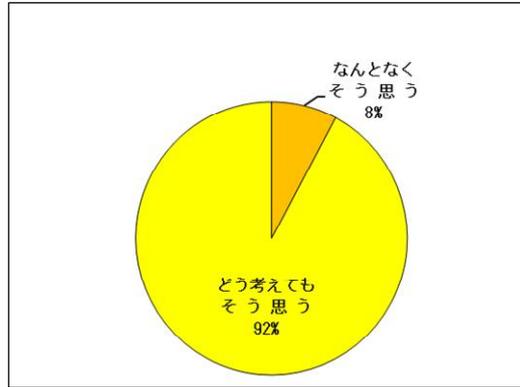
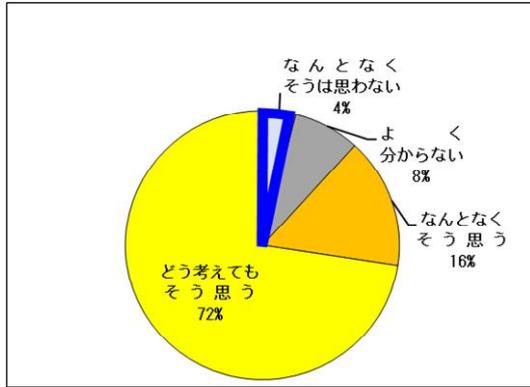
⑦「危険な場所」とは「入りやすく見えにくい場所」である。



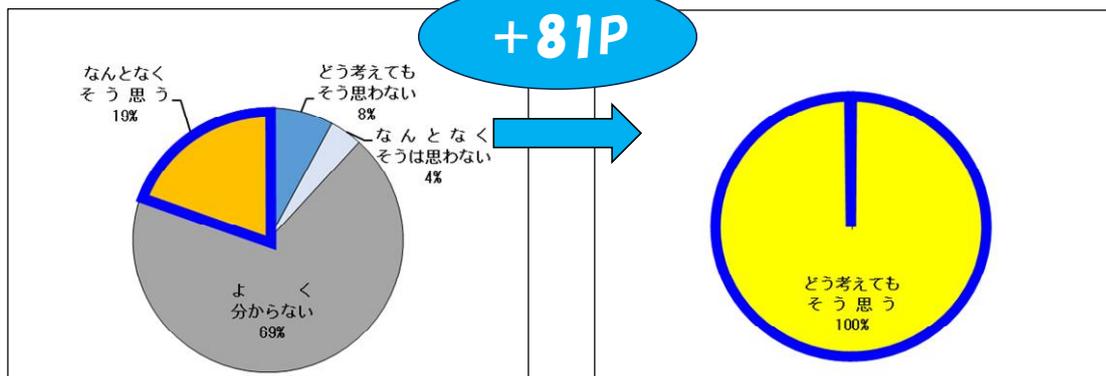
⑧人通りの多い場所は「危険な場所」である。



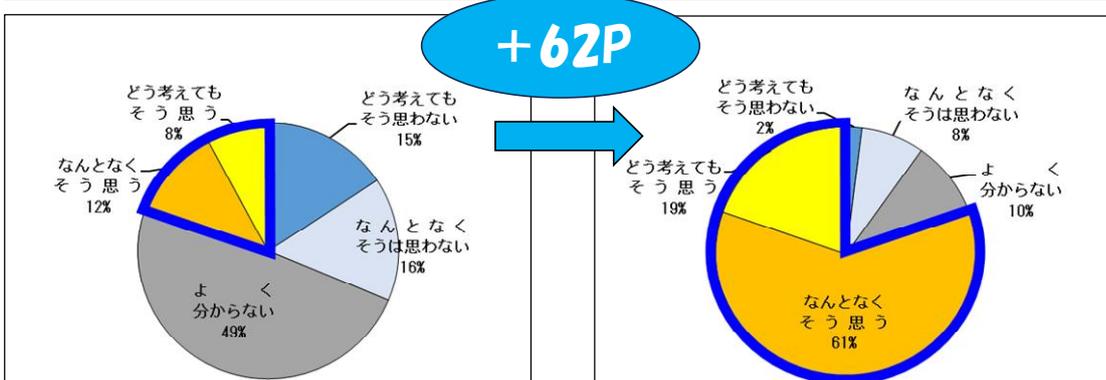
⑨暗い道は「危険な場所」である。



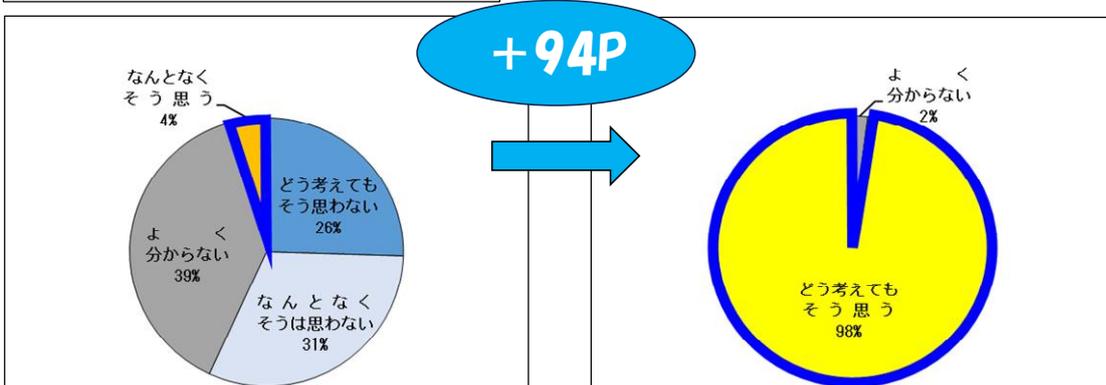
⑩子どもの遊び場になっている神社は「危険な場所」である。



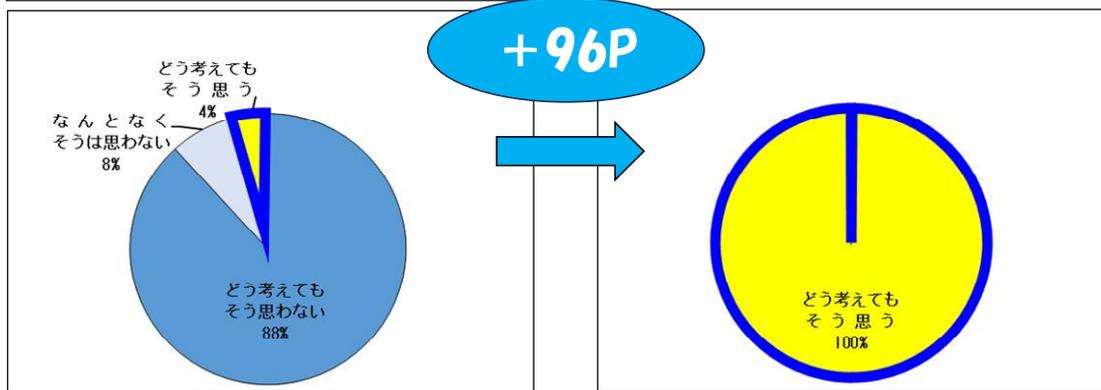
⑪ショッピングセンター（※ターミナル・ショッピングプラザなど）は「危険な場所」である。



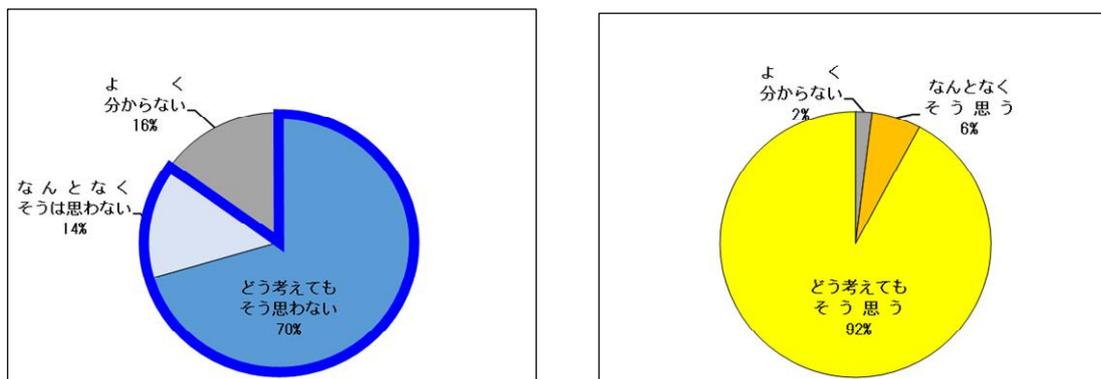
⑫学校の周辺は「危険な場所」である。



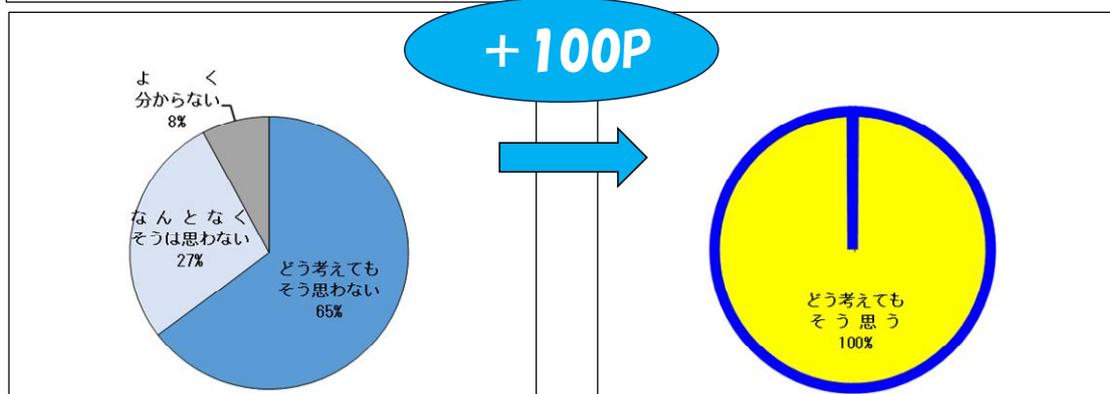
⑬周りが田んぼの道は「危険な場所」である。



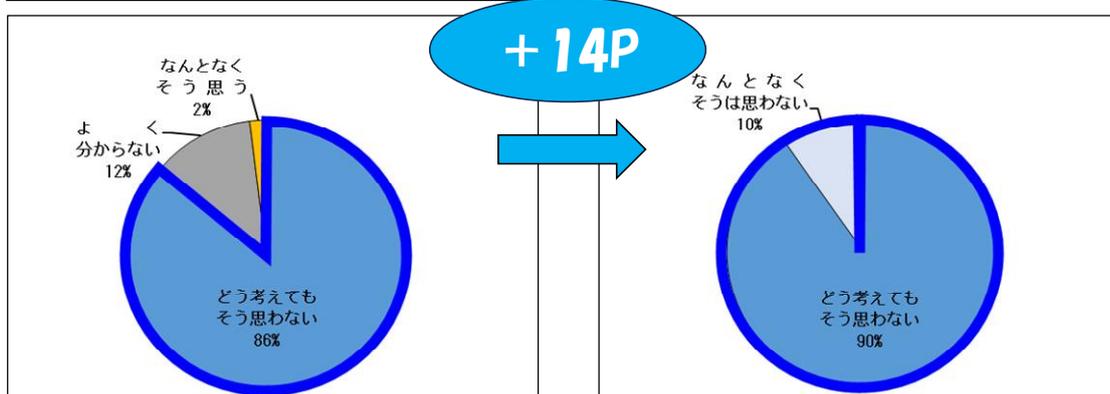
⑭ガードレールがある道は「危険な場所」である。



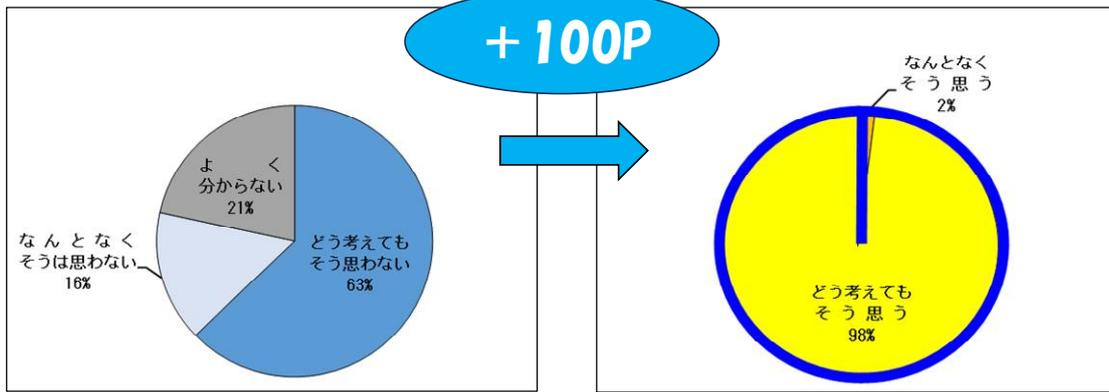
⑮落書きが多い道は「危険な場所」である。



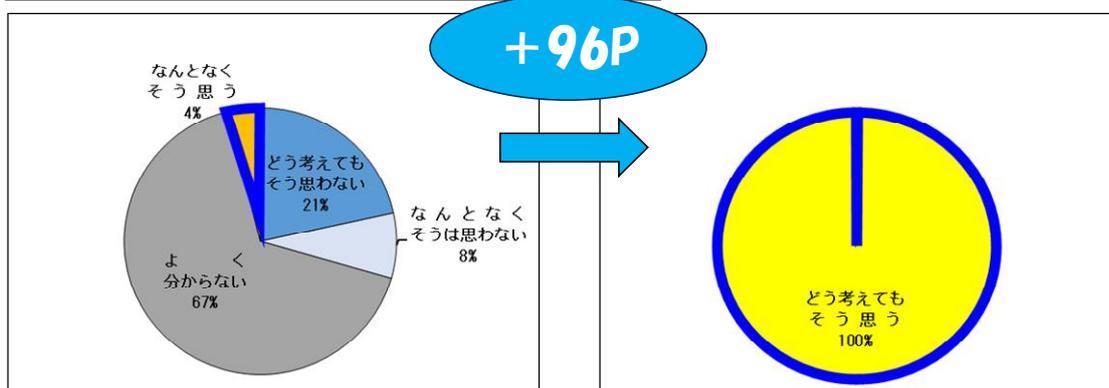
⑯花が飾ってある道は「危険な場所」である。



⑰公園の遊具の前にベンチがあると「危険な場所」になる。



⑱公園の前に駐車場があると「危険な場所」になる。



指導者からの講評

講 評

◇立正大学文学部 社会学博士
教授 小宮 信夫 氏

◇上越教育大学大学院学校教育研究科 学校教育学系
准教授 蜂須賀 洋一 氏

第2回推進委員会(R7.12.17) 記録

◇本事業の成果報告会の記録

今年度事業の成果と課題についての協議、及び今後の事業の方向性について意見を交換しました。是非、貴校の今後の防犯教育の参考にしてください。

◇標記委員会での指導者からのご指導

地域安全マップと子どもの安全

立正大学教授・社会学博士
小宮 信夫

地域安全マップとは、犯罪が起こりやすい場所を、風景写真を使って解説した地図である。具体的に言えば、(だれもが／犯人も)「入りやすい場所」と(だれからも／犯行が)「見えにくい場所」を洗い出したものが地域安全マップだ。犯行の機会の有無によって犯罪を予測する「犯罪機会論」を、だれでも楽しみながら学ぶことができるように、2002年に私が考案した。

例えば、フェンスのない公園は「入りやすい場所」である。周囲に家の窓が見えない公園は物理的に「見えにくい場所」である。人混み(注意が拡散している)やゴミや落書きが放置されている区画(知らんぷりされている)は心理的に「見えにくい場所」である。新潟女児殺害事件(2018年)の誘拐現場も、「ガードレールがないから入りやすく、両側が空きアパートと線路なので見えにくい場所」だった。

こうした景色がはらむ危険性に気づく能力、つまり「景色解読力」を高めることが、マップづくりの目的である。そのため、地域安全マップには写真が欠かせない。写真は景色を再現したものだから。景色解読力が高まれば、どこに行っても、犯罪を予測し、危険を回避できるようになる。したがって、マップづくりとは言うものの、実際には能力の向上という「人づくり」であって、地図の作製という「物づくり」ではない。

この地域安全マップは、2008年に政府の『犯罪に強い社会の実現のための行動計画』で採用されたが、その普及は進んでいない。実際には、地域安全マップと呼ばれているもののほとんどが間違えた作り方をしている。

作り方を間違えたマップの中で最も問題なのが、不審者への注意を呼びかける「不審者マップ」である。不審者という言葉から危険を予測することは不可能に近い。犯罪を企んでいるかどうかは見た目では判断できないからだ。道徳教育では「人は見かけで判断するな」なのに、防犯教育では「人は見かけで判断しろ」になっている。判別困難な「不審者」を無理やり発見しようとして、知的障害者、ホームレス、外国人を不審者扱いすることもしばしばだ。

間違えたマップで多いのが、犯罪が起きた場所を表示した「犯罪発生マップ」である。しかし、犯罪発生マップと地域安全マップは、機能上は全くの別物だ。犯罪発生マップは、二次元の地図を基礎に「鳥の目」から見たものであるが、地域安全マップは、三次元の景色を基礎に「虫の目」から見たものである。子どもも犯罪者も、地図ではなく、景色を見ながら生活している。したがって、安全と危険は、地図の中ではなく、景色の中で区別すべきものなのである。

間違えたマップの中には、何となく不安な場所を書き出した「非科学的マップ」もある。景色がはらむ危険性をキャッチするためには、それを可能にする科学的な判断基準、つまり危険性を測定する「ものさし」が必要だ。それが、犯罪機会論の「入りやすい」「見えにくい」というキーワードであり、これによって初めての的確な判断が可能になるのである。

このように現状では、ニセの地域安全マップがたくさん出回っているが、正しい作り方をした場合には、以下の効果が期待できる。

第一の効果は、マップづくりに取り組んだ子どもの危険予測能力が高まり、その結果、その子が犯罪に巻き込まれる確率が低下することである。大阪教育大学附属池田小では、

マップの授業を、児童への事前と事後の調査によって検証し、危険予測能力の向上という学習効果があったと結論づけている。一連の「学校安全総合支援事業」(文部科学省委託)における最初のモデル地域になった新潟県魚沼市立堀之内中学校区でも、マップの授業の前と後に、児童・生徒を対象にとったアンケート(意識調査ではなく知識調査である点が重要)を見ると、児童・生徒の景色解読力(危険予測能力)が大幅に上昇したことが分かる。

第二の効果は、マップを作製した子どもが非行に走りにくくなることである。マップの授業はグループワークの形式をとる。そのため、子どもたちは、クラスメイトとの相互作用の過程でコミュニケーション能力などの社会的スキルを伸ばすことができる。地図に装飾を施す作業や全員に発言させる発表会も、特定の子どもの排除されることを防ぎ、子ども同士の仲間意識を高める仕掛けだ。

また、マップの授業はシティズンシップ(市民性)教育という性格も帯びている。子どもたちは、街探検を通じて地域社会への関心を高める。住民へのインタビューも、情報収集というのは建前で、本音は子どもと住民との信頼関係の構築にある。要するに、地域安全マップの授業には、子ども同士の絆の強化、さらには住民との絆づくりが期待できるのだ。こうした社会的絆は子どもを非行から遠ざける。

第三の効果は、地域社会における犯罪の発生率を低下させることである。マップづくりによって、犯罪機会論の考え方が広まれば、地域を基盤とした防犯活動が、理論的な指針を得て、無理なく無駄なく展開されるようになる。例えば、欧米諸国で効果が実証されているホットスポット・パトロールは、日本で一般的なランダム・パトロールとは異なり、犯罪機会論に基づいている。その意味で、地域安全マップづくりは、コミュニティ・エンパワーメントの手法なのである。

2025年度は、長岡市をフィールドとして、「学校安全総合支援事業」が展開された。拠点校の長岡市立希望が丘小学校では、フィールドワークで航空写真を使うという工夫が見られた。前述したように、地域安全マップづくりの目的は、「景色解読力」を高めることだ。とすれば、完成品の地図だけでなく、フィールドワークにおいても、住宅地図ではなく、「写真」を使うことが有効なはずだが、私自身そのことに気づいていなかった。

これも前述したように、子どもたちの街歩きは、基本的に虫の目(現場に密着し物事の細部を凝視するミクロの視点)によるものだが、そこに航空写真を組み込むことで、鳥の目(大所高所から物事の全体を俯瞰するマクロの視点)を加えることができる。とても素晴らしい発想だと感じ入った。

小宮 信夫 先生 プロフィール

立正大学文学部教授。社会学博士。

ケンブリッジ大学大学院犯罪学研究科修了。

法務省、国連アジア極東犯罪防止研修所などを経て現職。

「地域安全マップ」の考案者。

警察庁の安全・安心まちづくり調査研究会座長、東京都の非行防止・被害防止教育委員会座長などを歴任。

代表的著作は、『写真でわかる世界の防犯 ——遺跡・デザイン・まちづくり』(小学館、全国学校図書館協議会選定図書)。

NHK「クローズアップ現代」、日本テレビ「世界一受けたい授業」などテレビへの出演、新聞の取材、全国各地での講演も多数。

公式ホームページとYouTubeチャンネルは「小宮信夫の犯罪学の部屋」。



「入りやすく，見えにくい」のキーワードの日常化を

上越教育大学
准教授 蜂須賀 洋一

「犯罪が起きる『場所』には共通点がある。」「犯罪は人が起こすものではある。だがどれだけ熟達した犯罪者でも，適した「場所」がなければ犯行には及ばない。犯罪者は場所に制御される。」（小宮信夫，『犯罪者が目をつける「家」－最新防犯理論が解き明かす』，青春出版社，2025年）この「場所」に着目した「犯罪機会論」を学べる学習活動が「地域安全マップづくり」である（本委員小宮信夫教授が考案）。

子どもたちは，これまで経験した防犯教育とは異なる視点からのアプローチなので，「えっ，それってどんな場所ですか。気になります。」と知的探究心が沸いてくる。「それはね，『入りやすい，見えにくい場所』だよ。例えば…」と，小学生にとってわかりやすいキーワードで説明する（小宮先生の防犯教室 あぶないところって、どんなところ？ Short Version」参照，<https://www.youtube.com/watch?v=QXUQC294V4U&t=218s>）。

すると，子どもたちは，「じゃ，私たちの住んでいる地域はどうなっているのかな。」「調べに行きたいな。」とますます探究心が高まる。さらに，「実際に調べてみると，私たちの住んでいる地域はこうだったよ。それを地域安全マップに表したよ。」「大切なことだからみんなに伝えたいな。」というように，子どもたちの探究意識がつながりながら，最終的には何かしら行動する姿を見ることができる。これが，地域安全マップづくりの主な学習活動過程である。

新潟県では，2019（令和元）年度より「学校安全総合支援事業」（文部科学省）として，各年度，上越地区，中越地区，下越地区，佐渡地区でモデル地域を指定し，それぞれの学校・地域の実態にあった「地域安全マップづくり」の学習活動に取り組んできた。

今年度は，長岡市立希望ヶ丘小学校の3年生が取り組んだ。その特徴として，第一に，「希望ヶ丘小学校版のUNITシート（全16時間）」が追加されたことが挙げられる。これは，昨年度，どの学校でも取り組める地域安全マップ授業を目指して開発した「UNIT1～4の4ステップで実施できる防犯教育」（粟生津小学校3年生）から受け継ぎ，希望ヶ丘小学校の実態にあわせて，さらに創意・工夫を加えたものである。カリキュラム・マネジメントでいわれる，「教科等横断的な視点」「PDCAサイクルの確立」「人的・物的資源の活用」の3つの側面からのアプローチが見えるとともに，単元の指導計画をセットにして，どの学校でも取り組めるような資料を成果物として示している。新潟県の「学校安全総合支援事業」として，地域安全マップづくりを通じた防犯教育を推進するために，このような資料は貴重な財産である。長岐先生をはじめ，希望ヶ丘小学校の先生方のご尽力に感謝申し上げたい。

第二に，地域安全マップづくりの一連の学習活動を通して，実際の子どもの姿として目に見える形で現れてきたことである。例えば，3年生の子どもたちが，「安全だと思って遊んでいた公園やグラウンドが，実は防犯の意識で見ると危ない」ことがわかり，「私たちの住む地域も調べてみたい」という意識で，希望ヶ丘地区地域コミュニティの方々とフィールドワークをしたことが報告されていた。ここでは，子どもたちが「犯罪機会論」という新しい知に出会って，その感動や問いが協働的な学びにつながっていったことがわかる。

そして，「入りやすく，見えにくい」場所を赤・青のシールで区別しながら，マップを完成させたこと。さらに，3年生が，調べて整理した結果を全校児童や保護者等に伝え，その様子は，とても明快でわかりやすく，堂々とした態度であったことも報告された。子

どもたちは、これまで知らなかったことではあるが、命を守るためにみんなが知っておくべきこととして、「ぜひ全校児童に知らせなければ。」という思いが高まったのであろう。新しい知である犯罪機会論と出会い、探究意識をもちながら、地域安全マップづくりに取り組み、結果としてすばらしい発表の内容や態度につながる事ができたのは、大きな成果であったと考える。

今一つ、発表会後の校外学習の際に「入りやすい、見えにくい」景色に注目している子どもがいたことが報告された。日常的に「景色解読力」が身につけてきた子どもたちの姿の現れである。小宮教授が『犯罪者が目をつける「家」－最新防犯理論が解き明かす』(前掲)で示しているように、「入りやすく、見えにくい」に着目した景色解読力は、子どもの防犯教育だけでは収まらない生涯にわたって役立つ知識である。日常的に「景色解読力」をどのように意識させるのかが課題である。

そこで、3年生で地域安全マップづくりに取り組んだ学校は、この後どのようなことに取り組めばよいのだろうか。学校としての、持続可能なカリキュラムづくりが課題となる。

少なくとも定期的に、景色解読力としての「入りやすく、見えにくい」場所については子どもたちに確認すべきである。例えば、声掛け事案等、何か情報が入ったとき、朝の会・帰りの会等で確認する。年間指導計画に位置づけられている「防犯避難訓練」や「防犯教室」の内容を工夫する。長期休業の前の安全指導、遠足や修学旅行、校外学習の事前指導としても確認することが考えられる。

5年生の体育(保健領域)では、「犯罪被害の防止」の単元、6年生の家庭では、「共に生きる地域での生活」の単元において、危険な場所への対応や回避等態度の育成と習慣化、改善に向けたまちづくりに参画する態度の育成を目指した活動の工夫も考えられる。効果的なカリキュラム・マネジメントがなされ、「入りやすく、見えにくい」キーワードをもとにした「景色解読力」が継続的に指導され、子どもたちの中に定着することが期待される。

このような子どもの命、安全を守る教育を推進する学校は、今後ますます保護者や地域から信頼されるものとする。そのためにも、本事業の充実・発展に期待したい。

最後に、このようなすばらしい事業に参画する機会を与えてくださった新潟県教育委員会、また、長岡市教育委員会、長岡市立希望ヶ丘小学校の方々、立正大学の小宮信夫教授に深く感謝申し上げます。

蜂須賀 洋一 先生 プロフィール

研究内容

法に基づいた、平和で穏やかな学校・学級づくりがテーマ。

具体的には、学校事故に関する裁判例に示された判決書を分析し、人権教育や生徒指導、安全教育等に活かす教材開発研究に取り組んでいる。そして、判決書教材を活用した授業プログラムを開発し、実践的な研究に取り組んでいる。また、教師の法に基づいた危機管理意識の向上に関する研修プログラム開発の研究も進めている。

論文・著書

- ・2026(分担執筆)『人権教育を基底にした学校教育の創造』
- ・2025(分担執筆)『2026年度版必携教育六法』, 協同出版
- ・2023(単著)「気をつけたい教師の不適切な言動や対応～学校裁判事例から～」
『月刊生徒指導7月号』52(8), pp.19-23
- ・2022(分担執筆)『学校教育を深める・究める』, 三恵社, 「深める・究める安全教育」
- ・2020(分担執筆)『小学校・中学校における安全教育』, 培風館

お名前	内 容
事務局	<p>①令和7年度事業の成果と課題について</p> <p>次の2点から事業の成果と課題について報告</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 希望が丘小学校版のUNITシートの作成から 2. 希望が丘小学校の児童の変容から <p>【成果1】希望が丘小学校版のUNITシート（全16時間）が追加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティとのフィールドワークを充実させるためにも、4月初に「防犯の視点」について地域コミュニティと共有しておくことが必要だと分かった。 ・新たに3年生のUNITシートを県内に周知できる。 <p>【成果2】犯罪から自分の身を守るための景色の見方を身に付けた児童生徒が増えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この学習で、犯罪者に、犯罪の機会を与えないようにしようとする児童生徒が育つ。 ・この学習で、誰もが入りやすく、誰からも見えにくい場所の見方が分かる児童生徒が育つ。 <p>【課題】年度当初からの学校と防犯団体との連携の持ち方</p>
長岐教諭 (希望が丘)	<p>②事業の成果と課題について</p> <p>(1) <u>「え？そんな意識で宮内の町を見たことがないぞ。」という新しい視点</u> 子どもたちの防犯の意識は、最初は0（ゼロ）に等しい状態。希望ヶ丘小学校は安全で平和な町だという意識。学校の周りがゾーン30になっているので、「いろんなことで守られているから希望が丘は安全な町」という意識。そこで小宮先生のYoutubeを見せた時に、「え？そんな意識で自分たちの町を見たことがないぞ。」という新しい視点が加わって、「じゃあ、調べてみたい。」という気持ちに変わった。</p> <p>(2) <u>「防犯の意識で見ると危ない」と思えた時に、「調べてみたい」という意識に繋がった</u> 小宮先生のYoutube動画は分かりやすく、どういうところが危険なのか、というのはなんとなく分かった。「入りやすい、見えにくい」という合言葉のもと、まずは先生たちがいるグラウンドで調べた。次に、先生がいない、学校の近くの公園で調べると、「この道路は柵がないから入りやすいね」と</p>

	<p>か「死角があるからうんと見えにくくなるね」という確認ができた。この2回の経験を通して子どもたちは、実際に目にしながら、「あ、ここが入りにくいんだな、見えやすいんだな」ということを理解していった。そして、「安全だと思って遊んでいた公園やグラウンドが、実は防犯の意識で見ると危ない」と思えたときに、「じゃあ、地域も調べてみたい」と意識が繋がった。</p> <p>(3)付いていく大人に防犯の意識・景色の見方が備わっているか（課題）</p> <p>完成したマップの出来具合に差が出た。担任が付いていたグループとそうじゃないグループで差がある。付いていく大人の方に、防犯の意識・景色の見方が備わっていると、フィールドワークが充実する。</p> <p>(4)学習の深まり、意識の向上、子どもたちが防犯について再確認</p> <p>「神社って安全だと思って祭りもしてたのに、実は危ないところだらけじゃん。」という気付きが、「知らせなきゃ。」という意識を芽生えさせた。「全校のみんなに知らせるために地図を作ろう。」という意識が、「地図だけだと何が危険か分かんないから、自分たちが学んだ防犯のことについて教えよう。」となった。その資料を作ること、発表練習をすることが、防犯についての再確認になり、理解度向上に繋がった。</p>
<p>長岐教諭 (希望が丘)</p>	<p>発表会後に、校外学習でバスに乗って出かける機会があった。その際、土手の上から下を見ていたら、子どもたちが、「あそこってさ、危険だよな。先生、ここは入りやすいし、見えにくいから、ここで遊んじゃダメだよね。」と言っている子たちがいて、びっくりした。</p>
<p>事務局</p>	<p>金田先生にも、同じような子どもの様子が昨年あったのでは。</p>
<p>金田教頭 (粟生津小)</p>	<p>はい。おっしゃる通り。子どもたちは、知らないうちに気づいていて、知らないところで声に出している。それで子どもたちはお互いに確認しているんだな、というのがよく分かる。</p>
<p>事務局</p>	<p>子どもの定着具合を知る上で大変参考となる内容でした。 単元の時間は、ユニットシートを見ると16時間。</p>
<p>長岐教諭 (希望が丘)</p>	<p>最初はここまでかかるかな、みたいなのはあったが、これぐらいは必要。</p>
<p>事務局</p>	<p>早めの大人たちとの関わり、防犯団体との連携について、若井さんはどうお考えか。</p>

<p>若井さん (市民生活課)</p>	<p>今回、8月に講習会研修会を開いた。小宮先生の話も分かりやすく、確かにあの講習会のアンケートとしては、非常にためになったとか、ホットスポットパトロールとかの言葉も初めて知れたし、分かりやすくよかった、という意見はたくさんあったが、じゃあ実践できるのか、というと、どれだけ大人が早く防犯の意識を変えられるか、景色の見方を身に付けられるか、というところがなかなか難しい。行政側の課題。口酸っぱく言いながら体験させ、意識を変えてもらうしかないところ。</p> <p>子どもたちの発表会を聞いて、あそこまで発表できるとは思っていなかったのが正直なところ。非常に子どもたちの意識は大きく変わった。じゃあ、大人の方はどうやって変えていくか、というのがなかなか難しいところ。</p>
<p>事務局</p>	<p>子どもたちの発表をビデオに撮って見せれば、一気に防犯の景色の見方を理解してくれそう。それぐらいいい発表でした。2月に打合せをした際にも、防犯団体の防犯の視点が大丈夫か、心配されていましたね。</p>
<p>酒井教頭 (希望が丘)</p>	<p>地域の特徴というんでしょうか。この希望が丘地区が、学区が狭くて、そして同じような一本道が走っていて、しかも入り組んでいる。どの地域も道路の作りが似ている。道路の幅は狭くて、ガードレールはほとんどない。入り組んでいるので信号も無い。だから地域の人たちも、交通安全という意識がとても高い。実際に子どもの接触事故など、危険な場面っていうのはいくつもあって、挙がってくる報告や地域からの声は、「自転車が危ない」とか、そういった声がいっぱい。</p> <p>ただ一方で、不審な人に声かけられたとか、防犯的な声とか情報っていうのは無い。入り組んだ道は地域の人しか通らないような道なので。そういう意味では、地域の方は安全交通安全にはすごく意識が高いんだけど、防犯という点での意識は弱い。今のところは、「まあ安全な地域だ」という認識の方が強い。</p> <p>その中、こういった学習ができたり、発表できたり、地域の方と一緒に交流する機会が持てたのは、とても貴重だったなと思う。</p> <p>「入りやすく見えにくい」という視点で景色を見れた子どもたちが、「こういう所って危ないんだ」「こういう所に注意しなきゃいけないんだ」という視点を獲得したというのは、今後の子どもたちにとっても有効だったと思う。</p>
<p>長岐教諭 (希望が丘)</p>	<p>発表会の後、参観した保護者から感想が届いた。「ほとんど持ってない意識でした」とか、「大人も勉強になりました」という連絡帳をいただいた。</p>

<p>酒井教頭 (希望が丘)</p>	<p>ガードレールの調査については、ガードレールという言葉は知っているが、ガードレールがある道路のイメージがつかないんだと思う。希望が丘地区にガードレールが無いので。先ほども言ったように、希望が丘地区の道路事情が影響してるんじゃないか。</p>
<p>金田教頭 (粟生津小)</p>	<p>私からも感想を。 学習の流れがよくわかる実践ですごく良かった。 今回の実践で、大切だなと思うことを4点。 1点目は、小宮先生の動画を見るだけではなく、フィールドワークに出ることの大切さ。短い時間でも、その大切さをしっかり伝えていくべきだなと思った。 2点目。マップは視覚的に作ること。特に中学年から低学年にかけて有効。3年生レベル、4年生レベルだどこまで持っていくか。今回のようなマップ作りが一つ手本になる。先ほどおっしゃっていただいたように、入りやすいと見えにくいを分けることについては、小宮先生からご指導いただきたいと思うんですが、そういう視点で見るのも大事だなと思う。 3点目は、発表の機会が大事だ、ということ。発表することではなく、発表を準備することを通して、お互いに確認するということが大事だなと思った。「え、ここってそうだったっけ。」「そうだったじゃん。」というやりとりが大事なんだと思う。 4点目に、やはり地域の方々の協力が必要だということ。そして、大人ほど、この「入りやすくて・見えにくい」が入らないので、これをどうやって大人に伝えていくか。 機会を得て1月に燕市の多くの方に昨年の実践の発表する機会がある。燕市にもう一度この「入りやすくて・見えにくい」を伝えていこうと思うので、今回のこの希望ヶ丘の資料も少し交えながらできたらな、と思っている。 燕市は、また来年度に防犯カメラを増設したい、という話がある。昨年度の実践以降、燕市の方も動いているような気がする。去年は気付かなかったが、粟生津小学校の地域に防犯カメラがものすごくたくさんあることが分かった。駅前に4つぐらいある。でも、それが何のためにあるかっていうのに気づいてない感じがするので、それも交えながら、少し燕市の防犯意識を高めていこうというふうに思った。 最後に1つ。今月、地域子供会の場で、子どもたちに下校路や防犯について話す中で、「道路のところに雪がたまっているのは、子どもの身長だと見えにくくなっているね」という話をした。これは新潟ならではなんだろうな、と思ったので、「見えにくい」は、新潟では雪もあるんだよ、ということのアピールできたと思う。</p>

事務局	<p>フィールドワークについては、昨年、金田教頭先生が熱中症のことも考慮して、子どもとお家の方で写真を撮ってくるという活動に変えたところだった。私もフィールドワークは必要だ、と今回改めて感じた。</p> <p>子どもたちがフィールドワークで持つ地図は航空写真の方がいい、というお話が前回の実践委員会であったが。</p>
酒井教頭 (希望が丘)	<p>大人もそれと同じものがあるのか、それとも大人は違うものを持ったほうがいいのか。大人は住宅地図の方が分かりやすいんじゃないか、とも言える。逆に航空写真だと大人が分からなかったりする。屋根の色とか、建物の形。そういうところで今の場所をマップと照らし合わせていく。大人は、〇〇さんのお家を見つけるには、住宅地図みたいな地図で見つけていくので、航空写真だと、もうなんだか分からなくなってしまう。</p> <p>もしできるようになるのであれば、タブレット上にマップがあって、Googlemapのように自分と一緒にマップ上を動いて、「入りやすくて・見えにくい」場所があった時に「ポンっ」と記録して、場所の画像も残していけるようなものがあれば、とっても楽になる。</p>
事務局	<p>大久保課長様は、希望が丘小学校での防犯教育の取組、また大人の力という話も出てきていたが、いかがでしょうか。</p>
大久保課長 (長岡警察)	<p>我々大人の見方と子どもの見方はだいぶ違うと思う。大人感覚と子ども感覚をすり合わせるという意味でも、小宮先生の防犯動画を大人も見ることが必要ではないかと思う。そんな機会があれば、大人にとっての復習効果が期待されると思う。</p> <p>私も大人目で見えてしまう。交通安全の面では、刑法犯、認知件数データに引っ張られて、そういう犯罪があるのかなのか、という目線で考えてしまい、犯罪心理でその場所の景色を見る、という点では、若干マイナスになってしまう。警察という立場で学習に参加する際には、言い方を考えないといけないと思った。</p> <p>過去に、新潟市の事件があり、フィールドワークの研修に参加したことがある。「入りやすくて・見えにくい」場所を探す経験もした。警察の見方・考え方というのがあるが、一緒に今後も警察と連携してやっていければ、と思う。</p>
事務局	<p>長岡市教委、高橋指導主事はいかがでしょう。</p>
高橋指導主事 (長岡市教委)	<p>どうすれば教育行政の立場として、防犯の取組を広げていけるか、不審者情報の事実とともにどう伝えていけばいいか、指導していけばいいかを考え</p>

事務局	<p>させられた。</p> <p>今年度の管理職講座の中で、「入りやすくて・見えにくい」場所の景色の見方について取り上げた。まだ県内の学校ではこの防犯教育について十分に取組みられてはいない。だからこそ、粟生津小学校や希望が丘小学校の取組実践について県内学校に周知し、県内学校での取組の機会を増やしていきたい。</p> <p>小宮先生よりお話をいただく。</p>
小宮教授	<p>一年間、長い間、大変お疲れ様でした。すごい3年生だったな、というのが、第一印象。3年生でここまでできるのか、とびっくり。きっと、指導が良かったんだな、と思う。これはおそらく、発表会への繋がり、発表会までの道のりが長く、しかも太くという感じ。そして、その間に定着率がどんどん急速に上がっていったような感じ。</p> <p>有名な学習理論に、ラーニングピラミッドというのがある。通常は、自分でやると75%の定着で、人に教えると90%と言われている。その差15%。どうもマップ作りは、人に教えて定着するということで大きな差を生むような気がする。金田先生がおっしゃったように、発表会のその瞬間だけではなくて、そのプロセスにもものすごく負荷がかかる。25%よりももっと差がある。20～25%ぐらいの差が出て、定着率のレベルが上がるんじゃないか、という感じがしていたが、今日改めてそれを確認させていただいた。</p> <p>それからガードレールについて。これはちょっと不思議。確かに不思議。そもそもガードレールが無いので、何だか分かんないのか。「用水路に落ちないように」というようなガードレールはない？土手とか崖とか。</p>
事務局	<p>用水路も土手等も無いとのこと。</p>
小宮教授	<p>危険な場所だとガードレールがあるからこそ危険だ、という解釈はできる。それが無いとなると余計不思議。ちょっと僕にも分かりません。あと、ちょっとびっくりしたのは、フィールドワークで航空写真を使ったということ。マップの歴史は20年以上あるが、初めて。どなたの発案？</p>
長岐教諭 (希望が丘)	<p>他の学年が使っていたので、アイデアをもらった。</p> <p>2年生も町探検で外に出る学習が生活科にある。そこで航空写真を使っていたので、これはいい、ということで使った。</p>
小宮教授	<p>なるほど。地域安全マップも進化していて、もう20年以上前に最初に考え出して、最初から写真はあったんですけど。一番最初の頃は定規を使って、</p>

正確に地図を書いていた。それは僕のやり方だった。

ある時、一緒にフィールドワークをやって、マップ作りを手伝ってくれた大学生が「先生、フリーハンドの方がいいんじゃないの。」と言い始めた。「その方が同じ道でもいろんな道が出てくるから面白いよ。」と言い出して。マップにいろいろ書き込むためのコメント用紙など考えたのも全部学生。僕じゃなくて学生が考えた。コメント用紙とか、例えばイラストを入れるとか。まあ全部大学生が考え出したデザイン。

そう言われてみると、結構、学校に行くと、先生方が「定規を使いなさい。」と子どもたちに教えている場面に何度も出くわした。その度に学生が、「いやいや。マップはフリーハンドで描いたほうがいい。」と言って。

有名なガウディという建築家がいるが、彼の建築建物って直線が無い。全部曲線。なんでガウディがそんなことやってるかということ、彼曰く、自然ものはすべて曲線だよ、と。直線を考えたのは人間で、人工的なものだから直線があるのであって、自然はすべて曲線だよ、というのはガウディの主張。俺の建築物では全部曲線なんだ、と。そう言われてみれば、直線に見える道路も、実際は直線ってあり得ない。リアリティを追求するのであれば、まあ手描きなのかな、という感じがこれまではしていた。今回はもうそれすらないという、ちょっと驚きのマップ。

でも、これ結構、僕はいいと思う。先ほども出ていたけど、大人だとまあ、住宅地図に馴染みがあるけども、子どもはまず住宅地図には馴染みがない。でも逆に、グーグルとかで航空写真を見慣れているということであれば、例えばこれからスマホでいろいろやるようになった時も、住宅地図ではなくてGoogle earth でやろうとか、Google Streetview でやろうとなると、これがこれからの一つのパターンになるのかな、という気がした。

もちろん手描きは手描きで、いい面はいっぱいある。例えば学校の悩みとしては、時間短縮。できるだけ短い時間でマップ作りをしたいというのであれば、手描きでかなり時間を取られてしまうので、今回の様に航空写真を使うのが選択肢としては十分にあり得るような気がする。

要するに大事なものは、歩いている瞬間の景色なので。それがむしろ上から見るとこうだ、というのが分かるので、これはとてもいいアイデアのような気がする。

その証拠に、先ほどお話があった、遠足でしょうか、郊外学習でしょうか。行った時に子どもが、すぐにパッと気がついて2つのキーワードを当てはめた、というのも、そういう視点で景色を見れるようになった、という成果なのではないかな、という感じがする。非常にこれからオプションの一つとして、十分にあり得る、ということを教えていただいた。

最後に、今年は保護者のアンケートは取らなかったんでしょうか。

事務局	<p>今年は保護者は取っていない。</p>
小宮教授	<p>気になったのが、子どもたちがこれだけ定着率があった場合に、保護者はどう意識が変化したのかな、というところ。発表会では、どなたか大人が参加された？</p>
事務局	<p>大人は保護者が参加。 やり方としては、昼休みを使った発表会。</p>
小宮教授	<p>これだけ素晴らしい発表会ができて、定着率も高い子どもたちがいる。しかも3年生。学習発表会・学芸会レベルの動員をしてやれば、一気に保護者の知識レベルも変わるんじゃないかなと思った。子どもの成果を発表するというより、むしろ子どもが大人に教えてあげるんだ、という位置付けがあってもいいんじゃないかと思った。</p> <p>今どきなので。さっきの地図の話もそうだが、今どきの子どもたちの方が、結構進んでいる点があるので、次の課題というか、もうちょっと大規模な発表会があってもいいような気がした。</p>
事務局	<p>最後に、閉会のご挨拶。</p>
若井さん (市民生活課)	<p>一年間という長い期間、非常に実りのあった事業だったなと思っている。小宮先生も一年間お付き合いいただいて、大変ありがとうございました。これからが教育現場ももちろんですが、今度は、地域、それから行政の出番なのかなと思っていて、どう広げていくか、というのが本当の課題かなと思っていますので、頭を悩ませながら、これから考えていきたいと思う。</p> <p>今後ともご協力のほど、よろしく願いいたします。本日はご苦勞様でした。ありがとうございました。</p>